

# 北の国の謎

石井 豊喜 陸士56

先の大戦を経験した筆者の生き残り  
は、全く偶然と言う外はない。日本は  
積極的平和主義を唱え、日米同盟の下  
で国際協調により世界の平和と繁栄を  
希求している。

しかしながら、昨今の国際情勢は必  
ずしも安穩とした雰囲気ではない。例  
えば航空自衛隊の戦闘機による緊急発  
進回数、東西冷戦時を超えており、  
北朝鮮は核開発を進め、弾道ミサイ  
ルを高めている。

また中国は、東・南シナ海への進出  
を強めて、沖縄・尖閣諸島の接続水域  
に侵入している。

一方米国は、空母「カール・ビンソ  
ン」やミサイル駆逐艦を朝鮮半島の近  
海に派遣してけん制し、自衛隊も警戒  
を強めている。(4月15日新聞報道)

先の大戦の教訓からいたずらに危機  
感を煽るつもりはないが、我々は安全  
保障の分野で反省すべき点があるので  
はないかと思う。

北の国とは、北朝鮮、中国、旧ソ連  
(現ロシア)を指し、共産主義を国是

とする国である。筆者は、戦後旧ソ連  
に約4年間留置された経験から、最近  
読んだ文献を参考として、若干の所見  
を述べ、諸賢のご批判を仰ぎたい。

なお文献は、『共産主義黒書(ソ連  
篇)及び(アジア篇)』、著者はステ  
ファヌ・クルトワ・ニコラ・ヴェル  
ト、外川継男訳(ソ連篇)、高橋武智  
訳(アジア篇)で、筑摩書房である。

世界史の中で、米国は黒人の奴隷制  
度やインディアン弾圧の大罪があり、  
ドイツにはユダヤ人とジプシーの集団  
殺戮(ジェノサイド)を行った悲劇が  
ある。だが、共産主義という名目の下  
に「ユートピア」を目指しながらの、  
現実の政治体制について検索してみる  
必要がある。文献によれば、共産主義  
全体の犯罪性を示す犠牲者の数は膨大  
であり無視できない。内容は裁判によ  
る死刑や銃殺、絞首刑、収容所におけ  
る餓死、内戦による反乱罪など多様で  
はあるが、概要は次の通りである。

- ソ連 死者 2千万人
- 中国 死者 6千5百万人
- ベトナム 死者 100万人
- 北朝鮮 死者 200万人
- カンボジア 死者 200万人
- 東欧 死者 100万人
- ラテンアメリカ 死者 15万人
- アフリカ 死者 170万人

・アフガニスタン 死者150万人  
・国際共産主義運動 死者 1万人  
合計は約1億人に近い。

スターリン時代にポーランド軍將  
校・下士官4千5百人が「カチンの森」  
で銃殺され、ドイツ軍捕虜の大量死亡  
や占領地における工業設備の強奪、暴  
行は有名であるが、包括的な資料は少  
ない。

このような犯罪が共産主義体制の論  
理的、必然的教義により行われたので  
ある。筆者は、体験から、厳寒の伐採  
作業や劣悪な環境下における水のない  
なスープと1日3百グラムに足りない  
黒パンを食べ、強制労働により、多く  
の同胞が栄養失調などで死んだ強制収  
容所生活を熟知している。要は、独裁  
国の本質を解明し、その犯罪性を暴露  
したいのである。

## ●ソ連のプロレタリア独裁と赤色テロ

1917年の革命以来、労働者、農  
民は際限のない自由を求め、過激化し  
ていった。そして、司法、行政、立法  
の権力が傾き、国家が危うくなってき  
た時に、革命家レーニンが、プロレタ  
リア独裁の権力を掌握した。ボルシェ  
ビキの軍団は、自由奔放な暴力とテロ  
により反対者を抑圧したので農民の暴  
動やウクライナに反乱もあつたが、1

918年、ソビエト社会主義共和国連  
邦が樹立された。

1924年1月にレーニンが死に、  
次いでスターリンがトロツキーらの政  
敵を排除した後、ソビエト政権は、農  
業の集団化と「クラーク階級の絶滅化」  
を図り、抵抗する者を逮捕拘束してシ  
ベリアに送った。粛清により、いわゆ  
る「収容所群島」が設立されたのであ  
る。すなわち1930年以降の大テロ

ルは、スターリンの恐怖政治として1  
938年頃まで続き、赤軍のトハチエ  
フスキー元帥らが処刑されたのは、こ  
の頃であつた。また、学者や文化人が  
亡命し、多数逮捕された。

1935年1月の記録によれば、1  
96万5千人以上の囚人がいて、その  
うち72万5千人は強制収容所に、24万  
人は労働コロニー(施設)にいた。そ  
の後20年に及ぶこの巨大な施設と生産  
力は、ソ連経済に占める比重は大き  
かったと言われている。

1939年に第2次世界大戦が勃発  
して戦争による多大な人的・物的損害  
を受けたが、戦後復興について、ドイ  
ツからの現物賠償の他、人的・物質的  
にソ連の勢力圏に入った東欧諸国の再  
建が役立った。

1953年スターリンが死に、19  
56年ソ連第20回党大会でフルシチョ  
フがスターリンの罪を暴露して以来、

非スターリン化が進むと思われたが、1985年ゴルバチョフの登場まで経済も国民生活も停滞の時代となった。

その後1991年12月8日、ソ連邦が解体して、バルト3国とグルジアを除く11カ国が独立国家共同体(CIS)の結成に合意した。

冷戦後非道の独裁者スターリンを評価するロシア人は多いと聞いているが、彼の反倫理的所業に反発しても、国際的なロシアという国家観では、アメリカと安保条約を締結している日本に対する態度は、明らかに対立的なブーチン大統領である。戦後スターリン以来の北方領土では、日本国民が一致して信じている「第2次大戦後ロシアが違法に占拠した」という史実を、ブーチン大統領に納得させることができないうのは残念である。

さらに現在のロシア政府は、自国の天然資源により先進工業国の中で、特別な地位を確保できると考えており、またクリミア併合やウクライナ問題では、ロシアへの愛国心を示す者に対して力の政策が実行された。そして、2014年1月のロシア・EUサミットにおいて、ブーチンは「ロシアとして介入する意図はなかった。ウクライナの人々は、自分たちだけで答えを導くことができるはずだった」と強弁している。

ロシアに関して文化面について触れると、ゴルバチョフの登場により、国家と国民との関係は変化してスターリン礼賛の風潮はなくなった。例えば、

スターリン時代に建築された32階の巨大建築や地下鉄に象徴される大工事は後を絶ち、現在は風光明媚なサンクト・ペテルブルグにあるエカテリーナ2世の冬宮殿は、現在エルミタージュ美術館として世界的に有名となり、またロマノフ王朝ゆかりのペテロパウル寺院は、世界遺産に登録されている。

### ●中国の毛沢東による暴力革命

中国共産党による大量粛清は、ソ連と異なり特別な権力闘争であった。1949年10月1日北京の天安門において中華人民共和国成立を宣言して以来、国内戦は別として、党内部の粛清による犠牲者が多く、実際に「反革命者」の監獄制度による死者は200万人と言われる。

また農村の反革命分子や、都市住民に対する抑圧は厳しく、1957年の統計で約250万人が「労働矯正所」に拘留されたと記されている。中国では党の地方委員と警察の支配下で行われ、取り調べ中に多くの自殺者が出た模様である。

毛沢東の「大躍進政策」は、1959年から1961年の飢饉と経済政策

の失敗により挫折し、人望のあった彭徳懷元帥は政治の中核から追われ、1974年に獄死した。

### ●チベットの悲劇

1950年10月、中国軍は圧倒的な軍事力でチベットを制圧した。ダライ・ラマ14世がインドへ亡命した後、1965年、力でチベット自治区が成立したが、漢人の人口がチベット人の人口を上回るようになり、中国の支配を受けるようになった。

次に毛沢東は1966年以降、彼の急進的な改革に対する劉少奇・鄧小平らの漸進の実務派から権力を奪取するため、大衆による思想革命を企図した。

実行は、若い世代による「紅衛兵」を組織し、「造反有理」のスローガンによる「文化大革命」を起こした。その過程で武闘による国内の大混乱の末、実務派は失脚した。しかし、共産党への信頼性は低下したと言われている。毛沢東が息を引き取ったのは1976年であるが、生前約10年間の労働矯正改革の施設に送られた人は、約200万人と言われている。その後、天安門事件に係る政治犯や受刑者は約10万人であった。

ただし、2010年4月15日に、温家宝首相が人民日報に胡耀邦を記念する文書を発表して人々を驚かせた。内容

容は、今でも中国民主化に大きな影響を与えた政治家であったというものである。このように中国は対外的に「民主・人権」などの普遍的価値を認めているが、国内的には経済面や企業の私有化・金融の面では自由化について政治的コントロールを実施している。

そして、現政権の習近平国家主席は、国内で権力の集中を図り、国際的には軍事力による拡張主義を目指している模様である。

終わりに中華人民共和国の隠された国内政治が無視できないので、数字で示す。内容は、冒頭の参考文獻によると、千カ所余りの大規模な労働収容所と無数の拘禁センターの話である。

これは今まで出版物で取り上げられなかった。これらの場所は「労働」や「再教育」が言い渡されるところで、門には「○○染色工場」となっており、訪問は禁止されていた。

この秘密の場所に囚われていた元国家主席劉少奇の子供が、その死(1969年11月)を知ったのは、何と1972年8月になってからであった。その時初めて父親と同様に拘禁された母親に面会できたのである。

元囚人で生きて出所できた人間がほとんどいなかったから証言が得られない人間が10000万人近くいること

は、世界で例のない残酷物語であろう。

囚人の多様性について、1955年頃はその80%が「政治犯」であり、次の10年間の初めには半数あまりが「刑事犯」で、1971年頃には3分の2近くが「一般刑事」となった。

拘禁センターは、収容所群島への「ふるい」の役割を果たす施設で、その数は約2500で、都市に置かれた。被疑者は余震を受け、服役期間はまちまちで、中央権力に直属していた。

●北朝鮮における犯罪、テロル、秘密朝鮮民主主義人民共和国は、1948年9月9日、朝鮮の北緯38度線の北方に広がる部分に建国された。

1950年6月25日に、北朝鮮により朝鮮戦争が起こされた。1953年7月27日、国連軍との間で休戦協定が調印されたが、そのまま今日に至っている。

北朝鮮国家は、いわゆる「主体思想」(自己抑制と独立と自給自足のイデオロギーを理論化する)という考え方を中心とした閉鎖国家である。従って情報収集と伝達は限定されている。

共産主義国家が成立するまで、抗日ゲリラ戦士による二つのグループが1921年6月頃まで敵対関係にあり、共産主義者の統一がなく、相互に犠牲者を出していた。

1945年8月、日本の敗戦後、米

英ソ3国外相会議がモスクワで開かれ、北朝鮮は5年間の信託統治にするに決めていたが、ソ連は農地改革による集団化と住民のイデオロギー支配を企図していた。そこで弾圧を受けた住民は南へ脱出した。金日成が南進をスターリンに懇願して許されたのは、1950年6月25日、北朝鮮の軍隊が南に侵入して国連軍との戦争となった。結果的に中国の援助軍兵士約40万人と北朝鮮軍約20万人、韓国軍約5万人、アメリカ軍約5万人の死者を出し、更に数百万人の住民が家を失った。また、国連軍のフランス軍大隊は約300人の死者と800人の負傷者を数えた。

共産主義者が自分の勢力範囲を拡大しようとした戦争犯罪は明らかである。また1983年10月9日、ビルマ・ラングーンでソウル政府関係を狙ったテロ事件や1987年11月29日の115人を乗せた大韓航空機の空中爆発事件があった。

また、北朝鮮国内の粛清は1960年から1970年代の裁判で、ソ連や中国とつながりのある高官がスパイ罪により処刑された。

刑務所と収容所の生活は数少ない脱獄者や外国人の拘留から釈放された体験者の証言により明らかにされた。

収容所の分類は、政治犯罪、非政治的犯罪、あるいは流刑地帯、特別独裁地帯における強制収容所、あるいは居住地の指定などによる収容所があり、多様である。また受刑者の罪状により拘留条件は異なるが、強制労働と飢餓による制裁は厳格を極め、裁判における自由を利用されている。拷問や性的暴力もあり、責任は家族全員に及ぶという。

1958年の金日成反対派の大粛清の際には罰がしばしば3世に及んだという。さらに具体例が記述されているので、今日の政府の政策はその後変わっているかもしれないが、国家的・組織やマルクス・レーニン主義の教義に基づく裁判には驚愕を禁じ得ない。また北朝鮮は、個人的選択や自立性の難しい国であり、独裁者の指導の下に統一した社会活動が要求されている。

●戦犯の拘留と拉致問題を風化させてはならない

日本政府が受け入れたポツダム宣言では、「日本軍隊は完全武装解除後、各人の家庭に復帰する」と定めていた。しかし、ソ連は約60万人の日本軍將兵をシベリアその他の各地へ強制的に抑留して労働させ、一部「戦犯」として処刑した。

最後の帰還船、興安丸が舞鶴港に入ったのは、昭和31年(1956年)12月26日であった。その乗船者数は、1025名である。

シベリア抑留11年間の過酷な苦難は筆舌に尽くし難いと思われ、ソ連側の人道上の罪は深いのである。例えば、マガダン収容所では、零下30度でも伐採や鉱山の爆破作業が行われ、栄養失調により多くの犠牲者が出たが、作業外の時間には、共産党の宣伝が続けられていた。食事は朝夕共に、こぼし位

の黒パンと具の無いスープだったと言われている。

北朝鮮の金日成政権は、スターリンを「モデル」とする人民抑圧方式を採用し、共産主義教育により、党の周囲を固め、革命のための全住民の集結を背景を持つ犯罪である。政権が維持で

共産主義の国である北朝鮮は、最近核とミサイルの開発を進め、国際的に脅威を増大しているの、やはり謎の

国であり警戒を必要とする。

●戦犯の拘留と拉致問題を風化させてはならない

日本政府が受け入れたポツダム宣言では、「日本軍隊は完全武装解除後、各人の家庭に復帰する」と定めていた。しかし、ソ連は約60万人の日本軍將兵をシベリアその他の各地へ強制的に抑留して労働させ、一部「戦犯」として処刑した。

最後の帰還船、興安丸が舞鶴港に入ったのは、昭和31年(1956年)12月26日であった。その乗船者数は、1025名である。

シベリア抑留11年間の過酷な苦難は筆舌に尽くし難いと思われ、ソ連側の人道上の罪は深いのである。例えば、マガダン収容所では、零下30度でも伐採や鉱山の爆破作業が行われ、栄養失調により多くの犠牲者が出たが、作業外の時間には、共産党の宣伝が続けられていた。食事は朝夕共に、こぼし位

の黒パンと具の無いスープだったと言われている。

北朝鮮の金日成政権は、スターリンを「モデル」とする人民抑圧方式を採用し、共産主義教育により、党の周囲を固め、革命のための全住民の集結を背景を持つ犯罪である。政権が維持で

きたのは、中国の義勇軍の支援があつたからである。そして拉致問題に関しては、当初調査を約束しながら、その後対応は不透明である。

中国の共産主義政党的毛沢東は、1920年から1930年の飢饉で住民の2000万から3000万人の死者を出した時、重慶の中央政府の失政に対して、土地改革を唱えて人心を掴んだ。

そして1945年以降、日本軍の敗退により反革命分子の大量粛清により政権を樹立した。推定によれば、600万から1000万人と言われる犠牲者があり、前述した千カ所余りの労働収容所と無数の拘禁センターでは、囚人の多様性にもよるが、「労改」と称する毛沢東主義教育が行われ、労働による人間改造が強制された。先ず自分の罪を認めた後でなければ、法に従うことはできないので、学習を怠ることではできない。目的は個人の人格を放棄させる「洗脳」であるから反動的思想では生きていけない。

中国で戦犯と烙印を押された日本人は例外なく懺悔の手記を書かされた。

この人間無視のシステムには啞然とせざるを得ないと同時に当時の収容された将兵に同情を禁じ得ないのである。

だが、食料を武器にした思想改造法があつたことを忘れてはならない。人

間は、命を懸けて最後まで抵抗することは難しいので、結果は明らかであろう。そして、改造の進み具合を仲間同士の自己批判に委ねている。また、同房者の「つるし上げ」に仕向けるといふ(密告・摘発)巧妙な手法に変わる。このような社会が生まれては最悪と言わざるを得ない。結局、受刑者または被疑者の自白による罪のつち上げにより判決を受け、弁護の余地はないのである。

### ●おわりに

共産主義者は人類から資本家(ブルジョア)などを除外して敵とし、人道に対する犯罪のごとく唱えた。ロシア革命のスターリンは、統治の手段として、犯罪的粛清を行った。

他方、ナチス(国家社会主義ドイツ労働者党)のヒトラーは、ワイマール憲法を停止して一党独裁体制を確立した。そして、反ユダヤ主義の下に集団虐殺(ジェノサイド)を行ったのである。

また戦後、占領軍による「東京裁判」があり、勝者が敗者を告発して、戦争指導者たちのA級戦犯と、捕虜虐待や一般市民の殺害などBC級戦犯の判決があつた。そして、国際法にもない「人道に対する罪」と「平和に対する罪」が設定されて、十分な証拠もなく、

多くの弁護が却下され、現地人の指名などで処刑された将兵があつた。BC級戦犯の死刑だけでも920人あり、判決を受けた者は約3400人いたと伝えられている。中には「冤罪」も含まれていると思われる。

現実には世界の各地で戦争が絶えず、緊迫した国際情勢が伝えられている今日、平和のために日本国民として何ができるのか、憲法の改正を含めて考え直す時期に来ていると思われる。

## 広告目次

(株) セレモア……………表紙3

(株) 東京都民互助会……………表紙3

ローレルバンクマシ(株)……………表紙4

(株) 武蔵富装……………47

信和株式会社……………47

(株) 和泉家石材店……………48

本誌へ広告掲載をご希望の方は、事務局へご用命下さい。